

刊夕日一廿月十

# 常警每日新聞

定額 一円五割  
廣告料 五割  
日曜祭日の翌日休刊  
発行所 常警毎日新聞社  
印刷所 常警毎日新聞社

## 「力」の滿蒙政策

市原 守馬

日本の産業を生かすためには滿蒙に於ける日本の權益は更に擴張擁護しなければならぬと云ふことは日本の生存上懸念なしの死活問題である。

之は滿蒙問題に關する我日本建前である。

例へば英國の印度エジプトに於けるフランスのモロツコに於ける如く全く不可分の關係にある。

或一説に滿蒙放棄の論あるも之が權益の放棄が日本の國權に懸念なしと誰が保證するか、現今の國際道徳の範圍にては斷じて斯かる平和主義は危険此上もない。

我國の對外投資は二十八億圓中對支投資額は二十七億圓其中滿蒙に十四億五千萬圓の投資と日清日露の兩役で百二十萬の兵力と十七億圓の國費を要して得たる國家の權益である。

認識不足の國際聯盟等の口云ふことは右の事實を如何に

舌を以て斯る權益を排撃せんとするが如きは日本國家の認むべからざる所である

滿蒙に於ける支那の宗主權は徹底しておるか治安福利が充分に保護されておるか否却つて事毎に排撃せられ三百余件の未決問題が残されておる現狀である。

元來日本人は謙讓の徳を有するが故に餘りに支那に對して日本人的の考を持ち過ぎておるが故に滿蒙に斯く々々の權利を持ておるからと安心して滿蒙に於て充分に經濟的活動が保證されておると高を括りたる所が支那人はソナナ權益や條約は反古に等しいものと思つておるから現在の馬鹿を見た譯である。

茲に「力」の必要が生じて來る。現在三百余件に上る懸案が解決を見ないでゐると云ふことは右の事實を如何に

### 高月會句抄 (二)

風呂の煙無花果の葉になひきけり (紅葉)  
無花果の暗きに蜘蛛の巢の光る (同)  
井戸尻の太無花果やはね釣瓶 (耕影)  
無花果の見ことに熟れし茶屋の晴 (同)

に語るものであつて若し之を一ツ／＼強硬に解決の方法を講じたならば今日の如き重大なる形勢を導かないで済んだ筈である。

將來日支の協調が可能であるかと云へば之は甚だ困難な問題である。元來支那は歴史の示す如く他民族からの被征服民族と云ふ先天的觀念を以て日本を視ておる限り絶対に接近も協調も出ぬ。

日本が支那より弱くて支那の支配下に屬せば親善になることは請合だが而し斯る時代は決して來てはならない。斯く觀察する時に滿蒙が日本と不可分である以上當然至道に基く「力」を以て一路邁進する事に依て將來の日本帝國の躍進が期待されると思ふ。

融金替爲。債公。券債

## 店質井田多

町工大町平  
番一九五話電

### 松島漁業組合

#### カキ貝御料理宣傳賣出し

カキフライ 金廿五錢  
スカキ全  
カキライス全  
カキなべ 金四十錢  
十月十七日ヨリ

御料理 一の井  
仕出し  
電話一六七番

### 専門 内科一般

住宅 内科は何でも診療致します  
往診 呼吸器病ばかりではありません  
平町南町六五

### 川井内科診療所

醫學士 川井重之  
女醫 川井安子  
電話一八一番

## 冬服衤櫛心

紺色柄物.....三ッ揃.....拾貳圓  
最新柄.....三ッ揃.....拾三圓五十錢  
スノッチ.....拾六圓五十錢  
最上紺黒.....三ッ揃.....拾九圓  
高級品.....三ッ揃.....拾九圓

平町正札堂洋服店 電四三六

### 縣教育會石城部會

#### 圖書科講習會

日時 十月廿八日(水) 午前九時より  
同 廿九日(木) 午前九時より  
會場 平第一尋常高等小學校  
講師 文部省囑託 石野隆氏  
會費 不要

#### 展覽會陳列目錄

- 一、現代大衆作品
- 野尻湖
- 子供
- 南イタリーの風景
- 残雪夕照
- 下落合風景
- 高浦
- 七面鳥
- 薔薇
- 讀書
- 人形的首
- 日本一の大鳥居
- 庭
- 静物
- 其他 三十点
- 二、世界十三ヶ國代表兒童畫 二〇〇点
- 三、全國優秀兒童畫 二〇〇点

#### お茶の値下斷行

本場銘茶の優良品を一段と品質を向上致しまして英斷的値下致しました、何卒御試飲下さいませ

煎茶四十目袋入 十錢より 五十錢まで

ほうじ茶四十目袋入 十五錢 第二號十錢

風味 平町三丁目

## 大勝園

本舗 鈴木義忠  
電話三九六番

迅 達

# 石城郡下の

## 買上米減少か

買上期日は卅一日から

### 米價下落が影響

政府の内地産米百萬石買上は此程發表され本日石城郡農會へも通知が有つたのであるが、買上期日は十一月二日迄に一口五十俵以上を以て買上げる事になり五日にこれが決定を見る事であるが本年一月執行の政府の買上米のうち本郡下よりは約二千俵餘の買上を見たが當時の庭賣値一俵の單價は政府買上米より九十錢乃至一圓餘の安値を呈した爲め斯く多數の買上を見たが今回は一般に米價下落の際とて前回同様の買上差額のな限り幾分減額を呈するだらうと

### 井上氏と野崎氏 縣參事會決定

石城郡選出縣會議員中よりの縣參事會員は政友派は井上茂作氏と決定、民政派は野崎滿藏、萩原義雄の兩氏猛烈な競争を演じたが同派

### 郡下青訓聯合演習

#### 昨日評議員會

中川少將の講演は

#### 磐中講堂で開く

來月十六、七日の兩日に亘り石城郡平町を中心として

に於て決戦投票の結果萩原氏小數にて破れ野崎氏と決した

### 石城から 酒井氏出席

關東北聯合醫師會 廿四日福島で

石城醫師會では來る廿四、五、六日の三日間福島市公會堂に開催される第廿一回關東北一府十三縣聯合醫師會に支會長酒井國三郎氏を出席せしめる事になつたが赤木内務省衛生局長及本縣川崎知事の臨席があつて當日は各縣より二名宛の代表者が持寄つた議案を協議するものであると

### 石城炭價 俄然崩落

需要期に入つて 當業者啞然

目下需要期に入りつゝある石城各炭礦は相當緊張して増産準備中であるが今月中旬に至つて標準炭一噸九圓

## 民衆的な秋刀魚

榮養價は鯛以上

夕餐時の道化者

秋十月

民衆的な秋の魚——それはさんまだ、朝、町の四丁目あたりを通ると、魚屋の口々に「さんま、さんま」と客を呼ぶ聲が喧ましい、そしてピンと張つたいきのいのが街のマダムの手籠

に入れられてゆく 漁は大漁、さんま群襲來の情報に漁師は海へ乗りだしてゆく、海は朝風ぎ、船は大船、出船入船の濱の雑踏に、獲れたさんまが街に

さんまの化學成分は他の魚類と大して違はないが、リポイド及脂肪性ビタミンの含有が他の魚よりも豊富であるためあぶらつこいのが特徴だ、滋養分は鯛よりもあるので高價なものよりすつと優れた貴い食品に違ひない

夕べの食膳にのせられて柔らかな味の口に入れる時の喜びは、ま、ま、ま、ラザーもシスターも、秋のさんまの新鮮な味覺に親しむもの……、いわしにあるやうな小さなホネが齒間にはさまつてチクリとするそれをとるのに一騒ぎするブラザーの百面相が一家を笑ひの渦に捲き込むのも團樂の楽しい風景、さんまは實に秋の民衆的な魚だ

四十錢が俄然一圓方崩落した爲め山元では需要期に向つての低調は前例のないこととで之が原因に就いて種々考究中であるがその間接的原因としては日支衝突事件から撫順炭における排日貨が祟り現在その販路を内地に開拓中なので之が打撃も相當にあるらしく一方短日月には好轉を期し得ない不況の深刻によるものといさ、か警戒を加へてきた模様である

### 飯野農事講習

石城郡飯野村農會では本日午後

一時より同村小學校に於いて水稻刈取法指導及稻の棒掛乾燥法の講演會を開催したので講師として木名瀬平穀物検査支所長が臨席した

### 鐵道官舎

平鐵道俱樂部に屬する人々が中心となり來月二日夜鐵道俱樂部に於て鐵道官舎居住の子供達の爲めコードモ會を催すべく準備中であるが當夜は童話、音楽、お伽劇等賑々しく演じらるゝ筈

### 競技精神に歸れ

(第二回磐陽野球大會) における紛争を觀て

平町一フアン

石城野球後援會主催朝日新聞社後援の第二回磐陽野球大會を觀て磐陽野球フアンの一入として其の感想の一端を書いて見様。 奮に野球のみならず總ての運動競技に於て吾人の最上の目的とする所は、肉を通した精神の訓練、即ち社會的性情と道徳的品性の陶冶に在るは論をまたない、故に世にスポーツマンと稱するは運動競技に熱心且つ忠實であると同時に相手チームに對する禮儀正義を尊ぶ事が其の根本條件とすべきである、又この一事は共同的に活動する上の根本條件でもある、即ちフェアプレーの嚴密なる精神は實に運動競技の目的と常套合

條に「如何なる事情あるもキャプテン或るはプレーヤーは競技に關する審判者の判決及び宣告の當否を論ずべからず」とある、但し六十三條に「キャプテンのみ抗議を提出する事を得」とあるも、抗議の提出と宣告の當否を論ずる事とは自ら別問題である。又自己チームが非常に強く相手方が弱い場合であつても、兩者の友情關係を無視しては圓滿に競技は行れない、此の點に於て、相互に自重し、自ら誇る事なく相互の力を十分に發揮せしめるには自制心を要する事が大切である、稍もすれば相互の不和或るは紛争の起るのはプレーヤー相互の自制心の缺乏に原因する事が非常に多い。

グラブ投上問題に於てよしボールにグラブが觸れなるとも投上げる事がすでに他のチームを甚だしく侮辱する事である。プレーヤーの不真面目によつて起る問題であつて、此の紛争は某チームの余りに規則にのみよつて片付け様とした態度である。斯る場合規則のみでゲームは處理さるべきでなく不文律の道徳によつて處理すべき問題であつた、此の權限は審判者に多大に與へられて居る筈だ、例へば試合を遅延さすが如き行爲と認めたる時の處理の如きが其の一例だ、當然あの場合審判者は規則のみでなく不道徳者としてプレーヤーを否チームを處理すべきであつたと思ふ。

# 「島太郎よ!!!」 生きて歸るな

## 在満の息子へ激励 悲壯な母親の手紙

石城郡江名町南町五八吉之助妻坂本シゲ(五)さんの長男島太郎(三)君は昨年より若松歩兵第九聯隊に入隊して目下滿洲守備隊兵として渡満して居る。過る滿鐵一帯に惹起した事變には大活躍をなしたが最近島太郎君から音信があつたのに際し母親シゲ女は左の如き悲壯な激励の言葉を盡して十八日に發送した事が附近の評判となつて居るがシゲ女の悲壯な

## 郡下兒童 競技大會

### 昨日打合せ會

石城郡下第一回兒童競技大會は来る十一月一日磐城中學校グラウンドにて開催されるが之について各小學校体育主任打合せ會を昨日平第一小學校に開き左の事項を協議した

- 一、選手申込は十月二十七日までとす
- 一、組合せは同日午前十時決定する
- 一、入賞は五名とし豫選は一回のこと
- 一、其他事項

## 軍事普及映畫會

### 明晩好間を初めに 郡内上映日割決定す

在郷軍人福島支部では時節柄在郷軍人及び一般民衆の軍事思想の普及と是が善導の爲め左の映畫を郡内各町村分會にて上映する事になつた上映フィルムは

- △吾等の軍隊
- △ソヴェットロシア労働
- △日露戦争を懐ふ

△廿二日好間△廿三日神谷△廿四日好間△廿五日湯本入山△廿六日高久△廿七日飯野△廿八日大野△廿九日豊岡△卅日玉川△卅一日上遠野△十一月一日植田△二日小名濱

## 柳下氏謝恩會

平町町會議員柳下元吉氏は現在材木商を営んで居るが以前下駄製造を爲して居た際弟子として其の薫陶を受け現に下駄職として家運の隆昌を見て居る人々が柳下氏の高恩に酬えんと近く謝恩の宴を張る由

## 石標奉納

### 草野の養蠶家

石城郡草野村養蠶家坂本長治氏外七十九名は此程茨城縣豊浦町養蠶神社に社號標柱を奉納したが高さ一丈三尺巾一尺八寸の仙臺石である

## 平地方最初の 兒童圖書展覽會

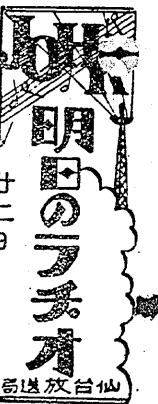
### 講習會開催を期とし 廿八、九日平第一校に

本縣教育會石城部會では来る二十八、九の兩日午前九時から午後三時まで平第一校において文部省囑託石野隆氏の圖書科講習會を開くが同時に此の地方では最初の計畫である兒童圖書展覽會を同校に開き一般の觀覽に供することになつたが同展覧會には現代畫壇の大家石井柏亭、中川紀元、南薫造、鹿子木孟郎、田邊至、石川寅治其他四十余氏の一流作品が陳列され世界各國の兒童圖書二百點全國各地兒童優秀畫二百點等も同時に陳列される筈である

## さんま大群襲來

### 各濱活氣を呈す 漸次南下の情報に 漁船いづれも出港

石城小名濱、江名、豊岡、四倉の各漁港では各方面へ盛んに出漁中であるが小名濱、富岡間一帶の近海にさんまの大群が押寄せて次第に南下しつつあり出漁中の漁船が籠で掬つてゐるとの情報が入つたので各濱の漁船は總出動でさんま漁に出港したが之によつて愈々さんまの最盛期に入ることになつた、尙今年は北海道方面において全國各濱から集



報豫氣天

今晩は南東の風  
曇り明日は午前  
南東の風午後北  
西の風

## 今晩の部

- 後六、〇〇 童話劇と管絃樂一、童話劇「ライオン捕り」二、管絃樂「クドリオーケストラ」
- 後六、三〇 英語講座「初等科」(一七)村岡博
- 後七、三〇 講演「東北の温泉に就て」阿部忠一
- 後八、〇〇 神樂囃子「劍の舞」「釣の舞」「道中樂囃子」
- 後八、三〇 獨唱「歌劇」「ワイド三唱」エミート
- 後九、〇〇 放送舞臺劇「假名古屋小梅」村田みね子他
- 後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告 生蘭相場
- 明日の部
- 前九、一〇 料理献立「鮭衛生焼」
- 前一〇、三〇 家庭講座「子供の金錢教育」上野陽一

## トラツクの落し物

### 時價五十圓の反物 動搖のため知らぬ間に

平町六丁目の齊藤常吉(五)は昨夕七時頃所用の爲め神谷村の農事試驗場前國道を通行中道路に大風呂敷が落ちて居るので開いて見ると銘仙伊豫絛等の反物十數反(時價五十圓餘)が在中してゐるので直に平署へ届てたが風呂敷に吉田吳服店のスタンプが押してあるので同店に問合せたところ品は平町鍛冶町の同店で四倉町の渡邊布光方へ送るべく四倉の新妻自動車店方トラツクに積荷したものを自動車の動搖の爲め運轉手の知らぬ間に落ちて行つたものと判明した

## 土藏前に 行倒れ

### 役場へ引渡す

石城郡好間村大字下好間農叶多勇平方の土藏前に廿日午後七時頃労働者風の者が

## 耳鼻咽喉科専門 大和田醫院

平町南町  
電一七〇

## 北白土婦人會

石城郡飯野村北白土婦人會では明二十二日午前十時から同字報國寺において總集會を開き各種の講習及講演がある筈

# 小説 七五郎

(六十五)

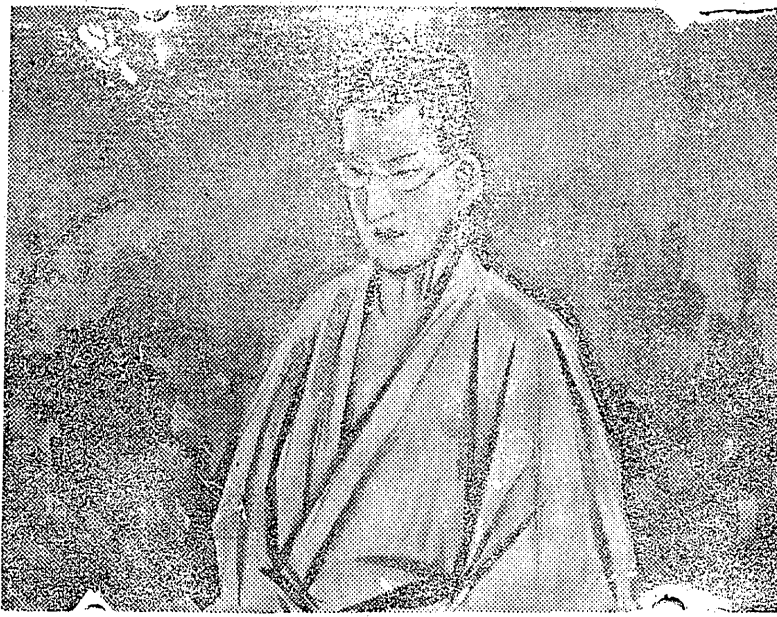
渡邊 默禪 作  
布施平八郎 畫

【載轉禁】

櫻散る夜 (9)  
自分の人格があまりに低く且つ小さな物であることに気づいた時に、彼は言ひやうのない悔恨の思ひに打たれて、そのまゝ凝然と落ちてはゐられなかつた。矢庭に勃然と立揚がつて寝巻の耳袋に手を入れ、ぐる／＼と室内を廻りはじめた。悪酒の刺戟はまだ頭腦に残つてゐて、石をのせたやうな重たい感じがする、そしてふら／＼と軽い眩暈が伴ひ、心臓は大きく波打つたのであつた。

『大變なことが出来てゐる……』と歌治は云つた。  
誰かが破産の申請でもしたのかな、それとも商法違反とか詐欺とか……もし父さんが病氣だといつたやうだつた。すると父さんが急に例の……然う／＼平生から脳病持だつたから突然にそんな病氣……いや、そつだつたら大變だぞ。』  
思はず慄然となつて立停つた。  
『けれども訝しいな、川島から何とも言つて来ないところを見ると、さうとも思はれないが……兎に角く詳しいことを最う一度あの歌

の口をあけて、すゝ／＼と柔かな寢息を立てゝゐた。試みに。  
『おい／＼』  
と揺ぶつて見たが身動きだもしなかつた。  
彼はそつと扉を押して廊下へでた。そして階段を降りて本館の帳場口に行くまでのうちに誰にも出會はなかつた。帳場には支配人の代理である若い男がこくり／＼と居睡りをしてゐた。彼はそれを呼起して歌治のことを訊いて見た。が、いつ歸つて行つたか、それとも歸らずにゐるのかも知らないと言へた。



たら新橋の家へ電話をかけるとして。そつだ一時もはやくとあせり出しました。』  
こう思案して寢臺の上を覗くと女神のヨフラマは寶玉の首飾をだらりと雪の胸に垂れたまゝ小さな畫微色

應て先刻歌治に遭つた菩提樹の下に来て見ると、やはり豫想通りそこには彼女の姿を見出すことが出来なかつた。  
レモンをもちやうな青い月魂はもう西に落ちかゝつ

ゐた。花散る夜中の空氣はオパール色に輝く露を花壇一杯にふりかけて、鬱金香やマリノスの花を頭重く睡らせてゐた。彼は冷たく沈んだ。その零亂氣のなかに魔のつかれたやうに的もななくふら／＼と歩き廻つた。  
『残念なことをしたなア、あの時に酔つばらつてさへゐなかつたら……いや、氣の毒なことをした、さぞ彼女は怨んでゐるだらう。濟まないことになつた。が然しこれと言ふもみんな自分が身からでた罪だ、もう自分にはあきらめるより外に術はない、あゝ、困つた。斯うなりや一層のことでも電話をかけるか夫れとも思ひあきらめるか……』  
つぶやいた途端に絶望に光る眼はひよいと足下に落ちてゐる一つの簪を見出した。彼の手は電光のやうに動いていきなりそれを拾ひあげた。

正露+メガネ  
無料検眼  
各眼科院御用  
田手屋計時眼鏡  
本根眼鏡

うなぎ料理  
いよいよ鰻のシーズン……  
御用命はぜ江戸川へ  
平館前通り 鱈料理専門 江戸川  
(電話六七七番)

冬の通學服  
当店特製の黒小倉通學服を豊富に取揃へて御座います。  
長ツボン付  
小學生用……85錢  
同(特製品)……190錢  
中學生用……280錢  
なかや洋服店 平電203

時計 召すなら  
精幸堂  
常に信用と責任ある良品廉價  
タイラの  
向店車動自チクキ路小槌搔町平

切斷の苦しみなく……  
靈藥ムテキ  
發賣元 阿康藥舖  
縣社下古鍛冶町(電話四四番)  
米國製藥(無臭)レメドール  
有偽物 要注意  
丹波博士創製 セキトメ  
たんばあめ  
めひはれ、やけど、淋病  
梅毒、きりきり、乳はれ  
くさ、りうまちす  
其他化膿するもの一切

新趣に輝き 實價を誇る  
製特店弊  
ウーログ用式軟  
塚大運動具店 電七七番

時計眼鏡  
トキワヤ  
平一・電三三九